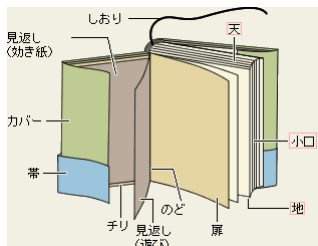


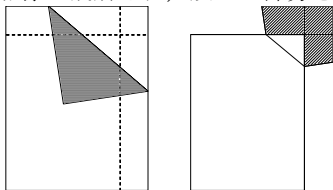
雑感 福紙（福の紙）

■ 書籍や雑誌などは、化粧断ちといって、製本された本の天地や小口を裁断する（右図は、第一印刷のHPから寸借し、加工した）。



■ 最近では余り遭遇しないが、昔はページが折れ曲がったまま化粧断ちされてしまい、イカのエンペラのような部分が残っていることがあった。

図のように折れ曲がった紙が点線で裁断され、残った部分を広げると右図のようなになる仕組みだ。



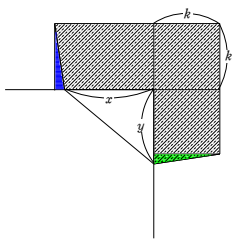
■ この残っている部分にはちゃんと名前がついていて、「福紙(福の紙)」と呼ぶ。その語源はおおよそ次のようである。

陰暦10月は八百万の神様が出雲の国に集まるため、神無月である。一方、出雲の国では陰暦10月を神在月とよぶことは人口に膾炙しているが、出雲の国に出かけず居残っている神がいて、それが福の神（恵比寿様）であるという。

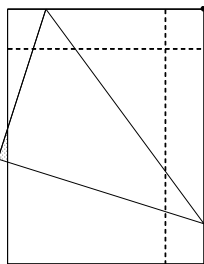
上のように裁断されずに「残っている紙」を「居残りの神」と洒落て、「福紙（福の紙）」と言うのだという。

■ 生徒にこの話をすると、「また、先生の親父ギャグだろ」と言われてしまうのだが、「広辞苑にも載っている話だ」というと、やっと納得してくれる。

■ さて、この福紙の面積はどれだけだろうか。右のような長さ x , y と裁断する巾が k であるとき、左上の青の部分（福紙に含まれない部分）と緑の部分（福紙に含まれる部分）が合同な直角三角形なので（図をきちんと描けば容易に分かる）、福紙の面積は $k(x+y+k)$ である。

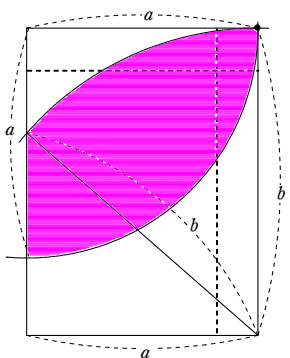


■ 横、縦の長さがそれぞれ a , b ($a < b$) の数枚の紙を重ねて左側を綴じ、天と小口を k だけ化粧断ちするとき、こういった福紙が生まれる場合を考えてみよう。紙が折れ曲がらなければならないが、単純に1回だけ紙の右上が折れ曲がった場合で考えることにする。



右のような折れ曲がり方だと、紙を重ねたとき折れ曲がった一部がはみ出てしまうので、折れ曲がりに気づく。

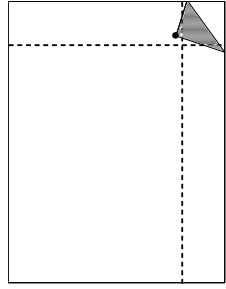
したがって、そういう場合を除外すると、右上の点（・）が折れ曲がって右の図のピンクの部分にあることが、福紙が生まれるために必要である。境界の曲線はすべて円弧である。



■ ところが、折れ曲がったにもかかわらず、福紙が生まれない場合がある。これは、折れ曲がり量が少なく、折れ曲がり重なった部分の全体が落ち落とされる次のページの図のような場合である。

そうすると、このような場合を除外しなければならないが、

このような場合の右上の点 (・) が折れ曲がって存在する領域はどこだろうか？



■ これは難しそうだ。

図のように、 x 軸、 y 軸で化粧断ちすることにする。紙が折れ曲がって、右上の点 $A(k, k)$ が点 $B(X, Y)$ に重なるとする。

図のように $\angle xOC = \theta$ とすると、点 C の座標は $(k, -k \tan \theta)$ である。

また、 $\angle ACD = \angle BCD$
 $= \frac{\pi}{4} - \frac{\theta}{2}$ であるから、直線 DC の方程式は

$$y = -\tan\left(\frac{\pi}{4} + \frac{\theta}{2}\right)(x - k) - k \tan \theta$$

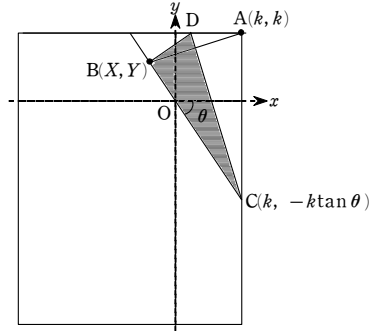
となる。

ここで、 $\tan \frac{\theta}{2} = m$ とすると
 $0 \leq \theta < \frac{\pi}{2}$ から $0 \leq \frac{\theta}{2} < \frac{\pi}{4}$ より $0 \leq m < 1$ で、

$$\tan\left(\frac{\pi}{4} + \frac{\theta}{2}\right) = \frac{\tan \frac{\pi}{4} + \tan \frac{\theta}{2}}{1 - \tan \frac{\pi}{4} \tan \frac{\theta}{2}} = \frac{1+m}{1-m}, \quad \tan \theta = \frac{2m}{1-m^2}.$$

よって、 DC の方程式は $y = \frac{m+1}{m-1}x - \frac{k(m^2+1)}{(m-1)(m+1)}$ である。

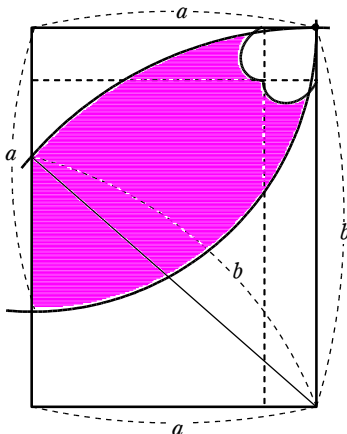
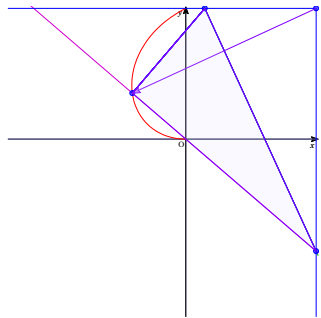
点 B は直線 DC に関する点 A の対称点であるから、点 B の座標を求めると $B\left(\frac{2km(m-1)}{m^2+1}, \frac{4km^2}{(m+1)(m^2+1)}\right)$ となる。



■ m をパラメータとし、
 $0 \leq m < 1$ の範囲で m を動かすとき、点 B の軌跡は右図の赤線である。

紙の右上の点 (・) が折れ曲がって、この曲線の右側の領域に存在する場合は、福紙は生まれない。

点 C が直線 $y = k$ 上にある場合も含めて、結局、次の図のピンクの領域に、紙の右上の点 (・) が折れ曲がった場合に、福紙が生まれることになる。



■ 折しも本日は神無月十日余り一日。相応しい話題である。

(「福紙」が一般的な呼び方らしいので、タイトルなどを変更した)